令和５年度東温市総合教育会議会議録

開会の日時及び場所	令和６年２月 19 日（月）午前　10 時　00 分 東温市庁舎　４階 大会議室	
議事に出席した構成員	市長	加藤　章
	教育長	八木　良
	教育委員	本田　隆彦
	教育委員	大西　正志
	教育委員	大野　誠司
	教育委員	石丸　知美
学識経験者	愛媛大学大学院教育学研究科（教職大学院）特定教授	中尾　茂樹
議事に出席した職員	総務部長	渡部　啓二
	危機管理課長	山本　健吾
	事務局長	森　　賢治
	保育幼稚園課長	近藤　和明
	生涯学習課長	渡部　昌弘
	消防署長	神野　和也
	学校教育課長	松本　則一
	学校教育課指導主事	橋本　清
	学校教育課長補佐	好永　慶一郎
	学校教育課主事	森内　裕生
傍聴人	１人	

１　開会宣言（10：00）

松本課長　　（開会を宣す。）

加藤市長　　最初に傍聴希望者の対応を確認いたします。本日は１人の方が傍聴を希望されていますが、傍聴を許可してよろしいでしょうか。

委員全員　　（意義ない旨伝える）

（傍聴人入室）

２　市長あいさつ

加藤市長　　はじめに、１月１日に発生しました「令和６年能登半島地震」で被災されたすべての方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。

本市においても、職員３名が１月 29 日から 10 日間の日程で能登半島の輪島市へ避難所の支援に行って参りました。こちらの３名は本当に寒い過酷な状況の中での支援に当たったわけですが、休憩時間や休みの合間等を縫って被災状況をスマホ等々で撮影し、先般市役所にて避難状況、支援状況を報告いただいたところです。応援して参りました職員の当時の状況を共有し、これから必ず来るであろう南海トラフ地震にも備えたいと思っております。

現在、チーム愛媛で職員を派遣しているところですが、再度、本日朝９時に第２班となる３名を見送りました。この３名も、過酷な状況、寒い中、しかも、段ボールベッドという狭い中での寝起きといった条件の中で頑張ってくれるものと思っております。同じくオール愛媛の中で、管理栄養士の方も声がかかれば現地へ行って支援するよう準備をしているところです。本日は防災教育というテーマですので、私もお話を伺いたいと考えております。

それでは挨拶を申し上げます。本日は大変お忙しい中、令和５年度東温市総合教育会議にご出席をいただきまして誠にありがとうございます。また、日頃より本市の教育行政の推進については格別のご理解、ご支援、ご協力いただいておりますこと、心から感謝申し上げます。

さて、この総合教育会議は、教育委員会と市長部局が教育政策について方向性を共有し、相互に連携して効果的に推進していくために設けられた制度です。教育委員会と市長部局相互に連携しながらこれからも精一杯進めてまいりたいと思います。小学校で 1,707 名、中学校で 845 名の東温市の大切な子どもたち、更には保育所では 512 名、幼稚園では 234 名という子どもたちがおりますが、東温市の大切な子どもたちをこれからも精一杯守り育てていきたいと考えているところです。

本年度の総合教育会議は、「防災教育について」をテーマに開催することといたしました。本日は、愛媛大学大学院教育学研究科特定教授　中尾茂樹先生をお招きして、「避難訓練」について講演いただくこととしております。先生、よろしくお願いいたします。

ご案内のとおり、南海トラフ地震が今後 30 年以内に 70％～80％とい

う高い確率で発生すると言われておりますが、私どもは必ず来ると捉えており、これに対して、職員あげて、地域あげて、オール東温、オール愛媛で対応していくものと思っております。本市においても、これまで避難所となる学校施設において地域と協力して避難所開設訓練等を重ねてまいりました。学校と地域は密接な関係にあり、学校での防災意識の向上は、地域の防災力の向上につながるものと期待しているところです。まだまだ設備、資機材等々十分とは言えない状況ですが、これからも市をあげて各部局の力を合わせて進めてまいりたいと考えております。

本日の講演後に皆様からご意見をいただくとともに、中尾先生からご助言をいただくことで、今後の防災教育、そして東温市の総合防災力を上げていければと思っておりますので、本日は限られた時間ではありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

３　協議

防災教育について

（１）講演　「シン・避難訓練のすすめ！」

講師　愛媛大学大学院教育学研究科（教職大学院）特定教授　中尾　茂樹　氏

森局長　（中尾茂樹先生の紹介をする。）

中尾先生　（講演）

（２）意見交換

加藤市長　我々も気がつかない部分や、本当にそうだったのかということ、我々としてもこれから直面しなければならないこと等々、大いに参考になったかと思います。先生のお話、ご助言を受け、教育委員さんから順番にご感想、ご質問をお願いします。

本田委員　貴重なご指導をいただきありがとうございました。私が現役の時にも、阪神淡路大震災、東北の大震災も起きていましたが、それを受けて自分たちの避難訓練を大々的に見直したかというと、そういうことはできていなかったなと今反省の思いです。自分の所では起こらないという根拠のない安心感のようなものに左右されていたのかなと思います。今考えてみますと、物が落ちてきますし、ガラスは割れて飛び散ります。そういったときに、場所によって安全な対処も違うでしょうし、当然児童や

教職員もけがをする可能性が大きいのに、対応を考えていたのかということも反省点ですし、放送機器はまず使えないと思うのですが、放送を使った避難訓練を続けていってしまったようなところがあります。誰の判断で行動するか、また、どのようにどんなことになるかというようなことまで考える必要があったのかなと反省の思いです。余震も起こる可能性がありますし、外壁が外れるということもありますので、待機がいいのか、避難がいいのか、判断基準のようなものを決めておく必要があったのかなと思います。登下校中に起こる、或いは旅行中に起こるということも当然考えられますので、色々応用できる力にしておかなければいけなかったのかなと色々反省をしております。

先週学校評価報告会があり、その席で、地域の実態に沿った土砂災害を想定した避難訓練や余震を想定したような避難訓練をすでに実施していただいている様子を聞き、対策が進んでいるなとありがたく思ったところです。また、川内中学校はかなり先進的な取り組みをしていただいていること、ありがたいと思いました。

先生方にお願いしたいと思うのは、まずは常に過去の震災等、災害を振り返り、教訓として提供していただきたい。またその度に実践的な避難訓練になるよう考えていただきたいと思いますし、最悪の状態を想定して、児童自らが判断して安全に行動できる、そういった能力を子どもたちにつけさせる。また、子どもたち同士で自助、共助、或いはけがの対応もある程度できるような力を身に付けさせる必要もあるのかなと思いました。登下校中など地域で生活しているときに起こることも多いと思いますが、地域の特性を検討し、その場その場で必要な避難、対応ができていないと思いますので、その辺りもまた洗い出し、どのような指導が必要か検討する必要があるのかなと感じております。東温市だけで生活するわけではないので、できれば日本中どこにいてもその土地土地の特性によって起こる災害を先に学べる、それに応じた行動がとれるような指導をしていかなければならないし、それができるような場を実感できるような、そういった教材の開発もこれから必要なのかなと思います。また、住む場所を奪われ電気も水道も使えない生活を耐え抜く、そういった能力、知恵を身につける必要もあるのではないかと思います。今行っている宿泊訓練や体験活動、こういったものをもう一度見直して、すべての教育活動の中で防災教育に取り組めることも考える必要があるのかなと思います。

東温市では現在コミュニティスクールが順調に進んでおりますので、

そういった組織を使って子どもたちと地域とが一緒に避難訓練をするようなことを定期的にしていく必要があるのかなと感じました。避難所においても、子どもたちがどんな生活をしないといけないのか、また、子どもたちがどの役割を果たさなければいけないのか、そういうことも実体験をさせていただけたら、そういう力を身につけていくのではないかと思います。

これから色々研究していくことはあると思うのですが、それぞれの学校で頑張っていただきたいと思いますし、また先生にも色々とご指導いただけたらありがたいと思います。

中尾先生　登下校のことについて、登下校中の避難訓練をドローンで映してそれを自分たちでもう一度見るというのは非常にいい振り返りになりました。そういうことも検討いただいたらと思います。

大西委員　新しい課題の発見に繋がる貴重なお話をいただき、ありがとうございました。私は東日本大震災の時に山手線に乗っていたのでその時の体験を思い出しながら聞いていました。先生が言われた、自分は大丈夫だと思っているというのは本当に身近に感じております。もう一つ、震度６以上の地震が起きたときは日常の文明の機器は全く使えなくなるという大きな経験をしたなと思います。

東温市でのシン・避難訓練としては、津波は考えませんので、まず子どもたちの命を守るための先生の判断と指示の大切さが一番にあると思います。次は、けが人が出たときには学校全体としての対応が必要。そして、保護者に子どもたちの無事をどういった方法で早く伝えるか。これも大事かと思います。守った子どもたちの命を無事に保護者へお返しするためにどうしたらいいかということも考えていかないといけないと思いました。特に東温市の場合、がけ崩れ、そして高速道路は安全確認のために一旦全部車を降ろしますので、市内の通学路が車で溢れると思います。子どもたちが事故に巻き込まれないようにするためには学校へどのぐらい待機させておくのがいいのかとか、特に保育園や幼稚園の子どもさんだったら、状況によったら１日２日預かることも必要な状況も起きるかもしれないとか、色々なことを思い浮かべながら、とにかく子どもたちの命を守るにはどうしたらいいか考えていきたいと思います。そして、話の中でこういうことがあるとみんなが優しくなる。とか、ワンチームづくりというのも一つの訓練の中で身につけていくように頑張っていきたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

中尾先生　東北では、津波が来るので引き渡しはしません。保護者が来ても、30

分はどの学校も絶対保護者に引き渡さないことが決まっています。ですので、東温市はどういうふうな対応するのかはもちろん違いますが、子どもを守るには安易には引き渡せないというのが、3.11 以来ずっとそうです。私が行った学校は、一日中学校にとどめていました。そのおかげで１人の死傷者も出なかったということを聞きます。

大野委員　説得力のある、アイデアに溢れた、そして、次どのようにしたらいいかという道標になる、そんなお話を聞かせていただいてありがとうございました。シン・避難訓練を端的に言うと、これは学校のことだけではなく市長部局も我が事として考えて欲しいのですが、ただ単に地震が起こったらどうするかと考えるのではなく、課題を見つけ続ける教育ではないかなと思います。避難訓練の仕方を見直したのも、そこにどんな課題があるだろうかと問いかけたときに、避難訓練の仕方が考えられたと思います。

もう１点、中尾先生がこんなにも東北に行っているとは驚きました。やはり、書いたものを見るのではなくそこで出会った人から学ぶということは、防災教育にとっても大事だし、中尾先生は１回出会った人はとことんお話して、大事なときにはもう一度その人と一緒にそのことを見つめ直すすばらしいところがあるので、おそらく、今回もいろんなところで出会った人をこれからの防災教育にも活かしてくれるのではないかと思って期待しています。

東北と愛媛の違いというお話で、私も、能登で地震が起こったときの事で、地域の人が職員室の中までどんどん押し寄せてきた学校があって、止めることもできず出て行ってもらうこともできず、そこにいた女性の先生がどうしたらいいのかと、本当に倒れ込むようにして私は電話をとり続けましたという手記が書かれていたのを最近読んだのですが、やはりそういう地域と学校との芯からの繋がりがないと、まさに東温市がしているコミュニティスクールが成り立ってないとこれはなかなか難しいと思いました。東温市でもコミュニティスクールが成り立っているのは小さい学校が多いです。大きな学校になると、そこまでの密度でのコミュニティスクールには中々なりにくい。色々なアンケート調査をすると、小さい学校ほど先生も子どもも保護者も自己有能感が高く、すごくいい結果が出るようなことがあるので、やはり大きい学校でも、地域とどう繋がるかということがすごく大事だし、その事がいざ避難所を運営する段階になったときに生きてくるし、普段の子どもたちを育てる中でも生きてくると感じました。

最後に、資料の中に18歳の子のお話が書かれてあるのですが、避難訓練をして、命を守り、そしてそれでもまだ悲しいことは一杯あるけどまた将来に向けて生きていこうとする子どもを育てていくことが、おそらくこのシン・避難訓練の先にあると思って聞かせていただきました。どうもありがとうございました。

中尾先生　大野先生は30年前に探求的な学習を既に附属小学校でしようとして、その道筋を作ってらっしゃったんです。人を大事にということも大野先生がおっしゃっておられました。

石丸委員　私には小学生の子どもが２人いて、その子が地震について話をしていたときに、「地震が来たら、こういうダイニングテーブルの下に隠れるんよね」って言って、もう一人が「いや、コタツの方が布団もあるし安全なんじゃない」と言っていて、ほうほう、とそのとき思ったのですが、これも防災教育が子どもたちに浸透しつつ、考えることもできているのかなと感じました。防災教育を私は受けていないですから、子どもの方はしっかり身についているんだなと、先生の防災教育プログラムが浸透しているのかなと感じました。もう一つ避難所の話になったときに、「うちは家も新しめだから耐震とかあるから、避難所には行かずに家で避難することになるのかなあ。」ということを言っていて、「そうかもね。」で話を終えてしまったのですが、そういうふうに考えていることは探求ですよね。どれぐらいだったら家にいてとか、避難所の方がいいのか家がいいのかとか、さらに発展して考えさせる機会になるということで、親も考えていきたいと思いました。

地域との繋がりですが、地元の子ども会の活動でのことですが、そういうのに入りたがらない人も結構おりまして、大きい学校の地域コミュニティが比較的希薄かなというエリアなんですが、やはりいざ地震が起きて、避難したり支援を受けたりとなったときには地域コミュニティが大事ですので、あまり入りたがらないような方々にもそういうことを意識してもらいたいので、何か方法を考えようと思った次第です。ありがとうございました。

中尾先生　子どもがそうやって育ってらっしゃるというのが、容認、支援、自立、最後立場の入れ替えで教え教えられが変わっていくとさらに高まるのですが、そうやって子どもが親御さんに、という立場の入れ替えができていてすごく有意義だと思いました。

地域の希薄さですが、防災教育はどの立場からも必然なので、命を守るというのは明確ですし、ある意味その防災教育というツールを使うと、

その希薄さを改めていくというか、そこに繋げられる良い手段ととらえることもできるかなと思います。

大野委員　講演の中で、沿岸部と内陸部の一対一の対応ができていたというお話があったのですが、具体的にはどのようにして一対一の対応を考えたのか、ご存じでしたらお願いします。

中尾先生　岩手県の教育委員会が、3.11 のもっと前から、津波被害を想定して、盛岡などの沿岸部から２時間ほどかかる所のこの小学校と、沿岸部のこの小学校は規模がほぼ一緒だから、まず提携して、というのが県の教育委員会主導でできています。東北では全ての高校に普通科や商業科と同じように防災科というのがあります。教育委員会の中にも防災に関する部署がしっかりしていて、その一対一対応をかなり以前から決めて取り組んでいたそうです。

加藤市長　市長部局の方も来ております。総務、危機管理、消防の方から何かありましたらお願いします。

渡部部長　職員として今後参考とすべき良いお話を聞かせていただき、ありがとうございます。お話を伺いながら、東日本大震災当時の東温市として実施をしておった防災訓練のことを振り返っておりました。その当時は、それまでに比べて飛躍的に行政も市民の方も防災に関する意識が高まったときで、そこで開催する市の防災訓練として、予備知識のない中で実施をしたのが、例えば自衛隊であったり、県の防災ヘリであったり、そうした関係機関に声をかけて来てもらって、東温市で何かあればこうした機関に助けを求めることができるんですといった、非常に派手なパフォーマンスの防災訓練に力を入れていたと思いますが、それがだんだんと、最近であると、各小学校を実際の訓練場所として、その周辺の市民の皆さんがそこへ避難してきて避難所を開設運営する、そういう、より具体的な訓練に近づいてきていると思います。今日の先生のお話を伺って、そうしたこれまで通りの型にはまった訓練ではなく、さらに起こり得る状況を想定して、その状況に対応できるような訓練を目指していかないといけないというところを痛感したところです。いいお話をありがとうございました。

山本課長　貴重なお話をありがとうございました。お話の中で、避難所運営は避難者自身というお言葉が出たと思うのですが、まさにその通りだと思っていて、今、市の総合防災訓練の時に自主防災組織に避難所の運営の開設訓練をしていただく具体的な内容を実施しております。実際、市の職員の人数は限られていますので、自主防災組織が来て動いていただかな

いとどうにもならないというところを市民の方に分かっていただかないといけないと思います。それと学校施設はどこも指定避難所になっていますので、訓練において、メインは体育館でいれば、学校の再開も早いのかなというようなことがあって、多少支障はあるのかもしれないのですが、基本的には体育館の中で完結できるような訓練、そして実際にそこでそういうふうにしてくださいと指導させていただいているのですが、今日のお話を受けて、その方向性は間違ってないのかなと思いました。今後もそういう訓練を続けていければと思っています。訓練をするときに、中学生の参加も毎年継続的にやっていくことで防災意識も変わっていくのかなと改めて思いました。本当にありがとうございました。

神野署長　　消防に関しても貴重なご意見、お話ありがとうございました。自分に関しては、緊急援助隊で東日本、広島、宇和島に派遣させてもらい、人命救助、捜索訓練をさせていただきました。その中で、100 分の１秒、1,000 分の１秒で人生が変わるという現場をたくさん見てきて、やはり災害を知ることや訓練をしていくことによって助かった命や助かった事案もたくさん見て参りました。東温市は危機感が低いということも感じておりました。そこで近年は、自主防災組織の防災力の強化で、小学校の学校教育、防災教育の変更、変化などで、少しずつ危機感が高まってきたように感じております。これからも防災教育については継続していく必要があると考えております。今回、シン・避難訓練ということで、川内中学校での訓練を見させていただいて、色々参考にさせてもらい、すごくいい訓練だと感じておりました。このシン・避難訓練も大事なことだと思いますし、それに加えて、やはり災害があれば、傷病者、けが人も発生します。その中で、応急処置や救命処置も大事なことになりますので、一歩進んだ、ドクターの意見や医療的見解を取り入れた救命講習を学校にも進めさせていただき、救命処置、避難訓練両方から防災の強化を図っていきたいとも考えております。消防としても災害対応能力の強化、現場活動の強化も加えて、防災力の強化も進めていきたいと感じました。本日はありがとうございました。

森局長　　基本的には学校の運営というところで校長先生を中心にお願いせざるをえない、これが現状だと思います。一点、私ども職員も、地域に帰れば地域の住民というところで、１日の３分の１は市役所、３分の２は地域にいるというところで、まずは地域の方への協力ということになるのではないかと思います。その地域の状況の把握ですが、先ほど石丸委員も言われたように、全体的に希薄になる中で、たまたま私の住んでいる

ところが山間部になりますので、家に誰が住んでいて、誰がどこで寝ているというところまで把握できた状況にあるのですが、やはり高齢の方が多いということで、今日は学校などの防災のお話ではありましたが、高齢者への対応、こういったことも地域として考えていかないといけないと感じております。今日はどうもありがとうございました。

加藤市長　ありがとうございました。重ねて申し上げますが、やはりこの災害に対するのは、オール東温、オール愛媛、オールジャパンで受けないといけないと思っております。では教育長まとめをお願いします。

八木教育長　まとめということですが、その前に中尾先生から何かありますか。

中尾先生　子どもたちが今防災教育習っているからと言いましたが、釜石の奇跡は、あれは、防災教育をしていたからではないんです。中学生に直接取材をしたら、消防署の方や消防団の方や行政の方がずぶ濡れになって救助したり、避難を誘導したりしている。大人の背中を見て僕らもしないといけない。そして、ああいうことがちゃんとできた。つまり、子どもから教わることも大切ですが、有事は大人が背中で教えるという話を聞いておりますので、今現場のお話を聞いて、なるほどなと思いました。

八木教育長　私の方から感想を話させていただいたらと思います。今日はシン・避難訓練というテーマで、シンがカタカナになっております。これはおそらく中尾先生からのメッセージだと思います。どんな漢字を当てはめるのかは、教育委員会は教育委員会なりのシン、消防、危機管理課にもそれぞれのシンがあると思います。新しい「新」なのか、進化する、進む「進」なのか、深める「深」なのか、或いは地震の「震」なのか。それぞれの立場でこのシンは考えてくださいという中尾先生からのメッセージだったのではないかなと感じました。

講演の中で感じたことをお話させていただいたらと思います。意識が変わると行動が変わるというお話がありましたが、先週東温市では学校評価委員会というのを、各校長先生集まって実施しました。その時に昨年までと明らかに変わっていたのが、防災教育について一言必ずお話されていたんです。川内中学校で避難訓練をしたときに、校長先生方にお声掛けをして、防災担当もお声掛けしたら皆さん来てくださったのですが、たった一日、半日、数時間、避難訓練をしただけで校長先生方の意識が変わった、行動が変わったというのに驚きました。川内中学校一校での実施でしたが、そこからいろんな学校に広がっているんだなというのを感じたのが一つです。それから、避難訓練で新しい課題を見つけることが避難訓練の目的なんですというお話がありました。課題があるか

ら駄目なのではなく、課題を見つけるための避難訓練のあり方というのを考えさせられました。また、この避難訓練について、避難する子どもも、自助、公助、共助の役割を担って支えられるということを大事にしていきたいと思うし、この避難訓練を通じて、学校運営や生徒理解が進む、しかも地域づくりにも役立てることができるというお話、非常に参考になりました。

中尾先生とお話させていただく時にいつも感じるのは、能登の中学生を指示避難させたその判断は正解である。例えば大川小学校でも、釜石でも、当時とった行動が正解であると必ず言われるんです。あの行動は間違っていてこうすべきだったとか、あれは違ってこうだったということはおっしゃらないです。それを聞くたびに、切羽詰まった究極の段階でした判断は、先生が言われるように、正しいんだと思うし、その判断が正しかったように行動すればいい。そういうメッセージだと感じました。たくさん避難訓練についてお話いただいてありがたいと思いました。

地域との関わりについてお話しさせていただいたらと思うのですが、先ほど石丸委員さんの方から、地域コミュニティに入りたがらないというお話がありました。中尾先生の話の中に、対話が大事だけれど、対話より前に会話が大事だというお話があったと思います。地域コミュニティに入りたがらないというのは、それはそれでいいと思います。会話があれば。だから会話を大事にしていきたいなと感じました。

今学校は多くの複雑な教育課題に直面しています。学校だけの自助努力ではなかなか解決できない問題がたくさんあります。そんな中で、地域にある小さな組織が危機に瀕している。例えばPTA活動をやめる学校も全国では出てきています。補導活動についても、意味があるのかという意見が補導委員さんから出てくる。やはり、このように少しずつ地域の組織が壊れつつあるのではないかというところに危機感があります。その中で本市では、加藤市長が日頃言われているように、地域の子どもは地域で育てよう、そしてそれを受け、東温市の教育基本方針の中でも、社会総がかりで取り組む教育の推進を重点目標にしています。つまり、学校運営に地域の方々の力を借りることで多くの学校の課題を共有し、そのことがよりよい学校づくりに繋がっていくと思いますし、子どもたちが様々な地域の方々と出会うことによって地域に愛着を感じていく。そしてそのことがやがて将来の東温市を支えてくれる人材にも育ってくれると思うんです。ゆくゆくはそれが急激な人口減少の歯止めにも繋がっていくと考えます。

避難所の中でコミュニティの結びつきが強い所ほど運営がうまくいくという話はニュースなどでもよく聞いています。ですので、本市でも地域コミュニティの育成を推進しているところで、しかも、このコミュニティ意識は連携や助け合いの基本となるもので、私たち市民の生活には欠かせない要素です。この欠かせない要素を培うためにどうすればいいかというのを愛媛大学の前教授であられた讃岐先生が３点ほど挙げられていて、一つは、全体の目標を個人が一人一人の目標として一体感を持つようにすることが大事であるということ。二つ目に、地域の中でお互いに信頼関係がある。三つ目に、互いに認め合うということ。大人対子どもではなく、大人も子どもも一緒に認め合って助け合っていくということが大事で、その大事な部分を最も共有しやすいのが防災教育だと思います。なぜなら、命を守るというみんなの目標が一致している。大人も子どもも、地域の住民もみんな一致しているから、中尾先生が常々言われている防災教育は地域教育の最前線ですというのはそこにあると思いました。

冒頭に東温市の二十歳の子どものメッセージを言われました。自分は地域の子どもたちから高齢者までみんなが幸せになる仕事がしたいと言っている。この地域でというのは、おそらく東温市です。東温市でそういう仕事がしたいという子どもが育っているというのが本当にうれしく感じました。

最後になりますが、貴重なお話をいただいた中尾先生並びに市長部局から消防、危機管理、総務の方、会議にご参加いただきまして、感謝を申し上げます。ありがとうございました。

加藤市長　教育長から総括の形でいただきましたが何かありますでしょうか。

それでは最後に、私の方から一言感想も含めて述べさせていただきます。まず先般の元旦の地震が起こった時、私東予に、ちょうど車の中におりまして、その時に、今自分は首長として何をしなければならないか、何をすべきかいうことを自問自答したところです。まずはその時に、１秒でも早くこの市役所に駆けつけること、これが私の第一義的な部分かと思いました。数々の様々なニュース、映像が流れてきますが、その中で、やはり職員と力を合わせて地域を守っていかなければならない。常々タウンミーティング等で申し上げているのは、まず守らなければいけないのは子どもを含めた市民の方です。この市民の方以外に、時間によりましたら通勤通学で東温市以外から通っておられる方もいわば被災難民です。そしてもう一つは、観光や買い物等々でこられている流入市民、

こういった方々もすべて被災市民として、首長として守らなければならない対象の大切な方々と位置付けているところでもあります。

いずれにしても、大規模災害であれば避難所の開設と運営になろうかと思いますが、この避難所では、たくさんの避難民の方がおられたら、そこで避難所の自治会長さんを作っていただいて、その会長の方が、何がどれだけ必要なのかというのをまとめていただければ、それにちょうど間に合った物が間に合った数だけ届けられる、それができるのかなと。同様に、そのあとの復旧復興の場合では、一例ご紹介しますが、大阪の泉佐野市と東温市は災害協定を結んでおります。その時に参考にいただいたのが、泉佐野市は泉州タオルで有名なところです。これの黄色いタオルの端に「我が家は無事です。」という文言が入っております。これを被災された所に掲げることで、消防団、警察、自衛隊、数々のボランティア含めた皆さんが、捜索が早くできる。これも非常にいいことだなと思っております。

いずれにしても、今後もこれからも訓練を通じて様々な課題が出てこようかと思います。何より、タウンミーティングではまず、ご自分の身を守っていただき、家族の無事を確認し、そして地域の方、お隣ご近所は希薄化の中でも大丈夫ですかという声掛けは必要かなと思っているところです。結論では、備えあれば憂いなしですが、備えがどこまでがいいのかというのは未知数です。今危機管理課長もおりますが、危機管理課には、予算が余ったら全て使い切れという指示を出しております。必要な部分がどれだけいるかはわかりませんので、その優先順位の中で、買い切れるものは買って備えておこうというスタンスでおります。これからも、必ず来るという南海トラフ地震に備えて、職員も、地域の皆様も精一杯頑張って参りたいと思います。その中で、教育バージョンで、学校の方の避難場所など学校現場にもご負担かけるようになると思いますが、その節はよろしくお願いをしたいと思います。今日はお忙しい中本当にありがとうございました。

それでは以上をもちまして、本日の総合教育会議を終了いたします。委員の皆様には、多くのご意見を頂戴しました。ありがとうございました。引き続き、これからも市長部局、また教育委員会部局とも両輪でタッグを組んで、市民の安全安心を守るために進めて参りたいと考えております。どうかよろしくお願いをいたします。では進行を事務局へお返しします。

４　閉会

松本課長　　（閉会を宣す。）

（午前 11 時 55 分閉会）